

(様式 3 号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 原田 裕子

〔題名〕

人生の最終段階にあり嚥下障害をもつ高齢者が最期まで口から食べるための
摂食・嚥下障害看護認定看護師の行動指標の開発

〔要旨〕

1. 研究の目的

本研究は、人生の最終段階にあり嚥下障害をもつ高齢者が、最期まで口から食べるために、摂食・嚥下障害看護認定看護師（以下、認定看護師）がとるべき行動指標を開発することを目的とした。指標開発の方法として、以下の 3 段階の方法を用いた。

2. 研究の方法と結果

【研究 1】

終末期の食事ケアに関する認定看護師の実践内容を明らかにすることを目的に、認定看護師 10 名への個別インタビューによる質的記述的研究を行い、判断と技術を明らかにした。その結果から、5 つのカテゴリー 27 項目からなる「重い嚥下障害をもつ高齢者が最期まで口から食べるための認定看護師の行動指標」の原案を作成した。

【研究 2】

研究 1 で作成した行動指標に 2 項目を追加し、「Ver. 1 重い嚥下障害をもつ高齢者が最期まで口から食べるための認定看護師の行動指標」を作成した。その内容妥当性の検討と実践状況を把握することを目的に、全国の認定看護師への質問紙調査を行った。さらに因子分析によって明らかになった構造から、安全な経口摂取支援を含む 3 因子 21 項目と、参考となる 7 項目を抽出し、「Ver. 2 重い嚥下障害をもつ高齢者が最期まで口から食べるための認定看護師の行動指標」を作成した。

【研究 3】

終末期高齢者の食事ケアを実際に行っている、研究 1 の対象者とは異なる認定看護師 9 名を対象としたフォーカスグループインタビューによる多角的（内容の明確さ、適切さ、信憑性、実現可能性）評価を行い、質的記述的研究を行った。その結果、「衰弱していく全身状態を踏まえた経口摂取の可能性の見極め」「誤嚥リスクを限りなく低減する判断と技術」「尊厳ある生と死を支える食事ケア」の主要な 3 因子 21 項目および参考となる 4 項目の 25 項目からなる「Ver. 3 人生の最終段階にあり嚥下障害をもつ高齢者が最期まで口から食べるための認定看護師の行動指標」を最終的に開発した。

3. 今後の展望

今後は、本行動指標の臨床現場での活用と有効性の検証が課題である。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1765 号 	氏 名	原 田 裕 子
論文審査担当者	主査教授 齊田 菜穂子		
	副査教授 森崎 直子		
	副査教授 田中 愛子		
学位論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。) 人生の最終段階にあり嚥下障害を持つ高齢者が最期まで口から食べるための摂食・嚥下障害看護認定看護師の行動指標の開発			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。) 重い嚥下障害のある高齢者が最期まで口から食べるために行う摂食・嚥下障害看護認定看護師の判断と技術 掲載雑誌名 山口医学 第 74 巻 第 1 号 P. 41 ~ 52 (2025 年 4 月 掲載・掲載予定)			
(論文審査の要旨) 申請された学位論文は3段階の研究で構成され、人生の最終段階にあり嚥下障害をもつ高齢者が、最後まで口から食べるために、摂食・嚥下障害看護認定看護師の実践調査を行ったうえで、摂食・嚥下障害看護認定看護師がとるべき行動指標を開発したものであった。 【研究1】 終末期にあり嚥下障害をもつ高齢者の食事ケアに関する認定看護師の実践内容を明らかにすることを目的に、重い嚥下障害を持ち余命が限られている高齢者の食事ケアに焦点を当てた文献と認定看護師 10 名を対象に終末期の食事ケアの判断と技術について個別インタビューから、「重い嚥下障害をもつ高齢者が最期まで口から食べるための認定看護師の行動指標」の原案となる5つのカテゴリ 27 項目を抽出した。 【研究2】 研究1で作成した行動指標に2項目を追加し、「重い嚥下障害を持つ高齢者が最期まで口から食べるための認定看護師の行動指標 Ver. 1」を作成し、その内容妥当性の検討と実践状況を把握することを目的に、全国の認定看護師への質問紙調査を行った。さらに因子分析を行い、安全な経口摂取支援を含む3因子 21 項目と参考となる7項目を抽出し、「重い嚥下障害を持つ高齢者が最期まで口から食べるための認定看護師の行動指標 Ver. 2」28 項目を作成した。 【研究3】 研究2で得られた「重い嚥下障害を持つ高齢者が最期まで口から食べるための認定看護師の行動指標 Ver. 2」28 項目の実現可能性の検討及び指標の表記の精錬を目的に、終末期高齢者の食事ケアを実施している研究1の対象者とは異なる認定看護師9名を対象に、フォーカスグループインタビューによる多角的(内容の明確さ、適切さ、信憑性、実現可能性)評価を行った。その結果、「衰弱していく全身状態を踏まえた経口摂取の可能性の見極め」「誤嚥リスクを限りなく低減する判断と技術」「尊厳ある生と死を支える食事ケア」の主要な3 因子 21 項目および参考となる4項目の25 項目を「人生の最終段階にあり嚥下障害をもつ高齢者が最期まで口から食べるための認定看護師の行動指標 Ver. 3」として最終的に開発した。 本研究は、Peter H. Rossi らのプログラム評価の視点から多角的に評価し摂食・嚥下障害看護認定看護師の行動指標 25 項目を作成したことや、本邦で初めて人生の最終段階にあり嚥下障害をもつ高齢者が最期まで口から食べるための摂食・嚥下障害看護認定看護師の行動指標を作成したことは評価すべきである。今後、臨床で摂食・嚥下障害看護認定看護師に行動指標の効果検証を考えており、この分野において社会への多大な貢献が期待できる。 以上から、審査委員会は申請された学位論文が博士(保健学)を授与するにふさわしいと認め、合格とする。 以上			